市報ぎょうだ
No.794
平成24年8月1日発行

行田 歴史系譜 221

忍城物語 5

忍城の堀から見つかった馬と犬の骨

昭和61年（1986）から62年（1987）にかけて行われた第1・2次忍城址発掘調査では、忍城本丸付近の堀が調査され、中世から近代に至るまでの多くの遺物が出土しました。その遺物には、土師器や陶磁器などとともに、数点の動物の骨などが含まれていました。動物の骨などは堀の最下層付近から出土し、ほかの遺物の状況から15～16世紀ごろのものと考えることができます。

第1次調査で見つかった動物の骨は、馬、鳥、種別不明の骨片などでした。このうち馬の頭蓋骨は、堀に架けられていた橋脚で打ち抜かれた状態で出土しました。これは何らかの儀礼のためにわざと置かれたものと考えることができます。近年、金沢城跡の発掘調査でも同様の事例が報告されています。

第2次調査で見つかったのは、犬、シカ、馬、鳥などの骨や貝類でした。このうち、犬の骨については、骨の数カ所に刃物で解体した際にできたと考えられる切痕（解体痕）がある点が注目されました。

堀から見つかった犬の骨

この犬の骨は、報告書では犬ほぼ1体分の骨と、そのほか数体分の大腿骨など、数点の長骨とみられていました。しかし、今年再調査した結果、少なくとも5～6体分の犬の骨であること、推定体高（地面から背中までの高さ）が43～48センチメートルと、現代の日本犬としては中型犬に近い体格であること、解体痕は当初の報告よりも多く、10カ所あることなどが分かりました。

犬の骨になぜ解体痕があったのでしょうか。おそらく食用にしていたのではないかということが、発掘当時からいわれてきました。再調査の結果、見つかった犬の骨が四肢の部分に偏っていること、それらがばらばらに散らばった状態で出土していること、シカや鳥の骨、貝など食用にしていた生き物の遺体と混ざった状態で出土していることなどから、食用にされていた可能性はやはり高いといえます。犬は近世に至るまで食用にされることは珍しくなかったようです。室町時代の重要資料の一つ「蔭涼軒日録」には、騎馬で犬を追い矢を射る競技「犬追物」を催した後、犬を食すという記述も残っています。戦国期においても、犬を食す機会は十分にあり、それは珍しいことではなかったのかもしれません。

出土した動物の骨は、忍城に暮らした武将達の信仰や日常を垣間見る貴重な資料なのです。

（郷土博物館　浅見貴子）

こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

はにわの館

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

古墳時代、古墳の上や周囲に置かれていた焼き物「埴輪」。その埴輪を気軽に作ることができる「はにわの館」を紹介するよ。

平成3年に、さきたま古墳公園内にオープンした「はにわの館」は、白い壁と三角屋根が目印。平成23年度は見学も含めて17,450人が訪れて、4,166体もの埴輪が作られたというから、大人気の施設だね。1体作るのに2時間程度かかるけど、スタッフの方がとっても丁寧に教えてくれるから安心！思い思いのMy埴輪を作って友達に自慢しちゃいましょう。

でも、乾燥させたり、窯で焼いたりするので、完成まで1カ月ぐらいかかるから、少しの間、待っててくださいね。

今月の表紙

7月1日、VIVAぎょうだ調理室で「食べ物と仲良くなろう！親子料理教室」が行われました。

この日挑戦した料理は、くまちゃんバーガー、まんまるミルクボール、ヨーグルッシングのカラフルサラダの3品。児童らは包丁の使い方や食材の盛り付けなど、保護者からアドバイスを受けながら、「見た目もかわいく、栄養たっぷりな料理を作ろう」と夢中になって調理していました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK 環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361－8601　行田市本丸2番5号
TEL 556－1111　FAX 550－2116